

# I

## しゃかいの文化

### 1 親 族

ヤノム族にみられるような未開小規模社会においては、文明社会におけるよりはるかに、親族によってその社会的行為が決定されることが多い。さらに親族組織は、婚姻制度と密接な関連をもっており、この親族組織を明らかにすることが基本的に重要である。

#### ◇トトビ河近隣一帯の インディオ部落

| 支族名   | 首長名    | 河 名  | 規 模 |
|-------|--------|------|-----|
| シリアナ  | ロベルト   | トトビ  | 大   |
| シリアナ  | フィアーリョ | トトビ  | 中   |
| シリアナ  | ブリニョ   | トトビ  | 大   |
| ワイカ   | ジャコ    | マブラウ | 大   |
| パキダリ  | ジュゼ    | トトビ  | 小   |
| パラフリ  | トメ     | トトビ  | 中   |
| ポスト居留 | マテウス   | デミニ  | 中   |

以上、今回調査部落。成員数50人以上大、50名～20名一中、20名以下小

今回、我われが調査したのはシリアナ族3部落、パキダリ族1部落、ワイカ族1部落、パラフリ族1部落、それにポストのインディオの計7部落である。

| 支族名    | 首長名   | 河 名  | 規 模 |
|--------|-------|------|-----|
| ホコテリ   | ダヴィ   | デミニ  | 大   |
| ワキシラテリ | アバカシノ | トトビ  | 大   |
| アコワテリ  | フィアンナ | デミニ  | 小   |
| アラヌテリ  | ——    | ——   | ——  |
| エネヘムテリ | ——    | ——   | 大   |
| ママビテリ  | アラフ   | デミニ  | 小   |
| シリシアナ  | ——    | ——   | 小   |
| シャンテリ  | ジャコ   | マブラウ | 大   |
| パキダリ   | ——    | ジュタイ | 小   |

調査部落以外はほとんどインディオより聞いたものである。そのため地域的に疑問な部落がある。

つぎに各々の部落について述べていくことに  
する。

# I シリアナ族ロベルト部落

首長はロベル

トである。シリアナ3部落の中では最大の成員  
を擁する。副首長はアントニオで、宗教面では  
最も力が強い。大きくわけて、ここではロベル  
ト、アントニオ、カーロスをそれぞれ筆頭とす  
る血族にわかれている。なお、以下の家系図の  
年齢はすべて推定年齢で、名前は FUNAI とミ  
ッションがつけたブラジル語の名前を日本語の  
発音におおして用いている。また3歳以下の幼  
児にはヤノマムタらは名前をつけないが、それ  
に合わせて、FUNAI、ミッションも名付けて  
いない。

つぎに年齢推定表を  
あげておく。これでわ  
かるように、女性が男  
性にくらべて早く死亡  
している。これは、今  
回調査したどの部落で  
も共通していた。

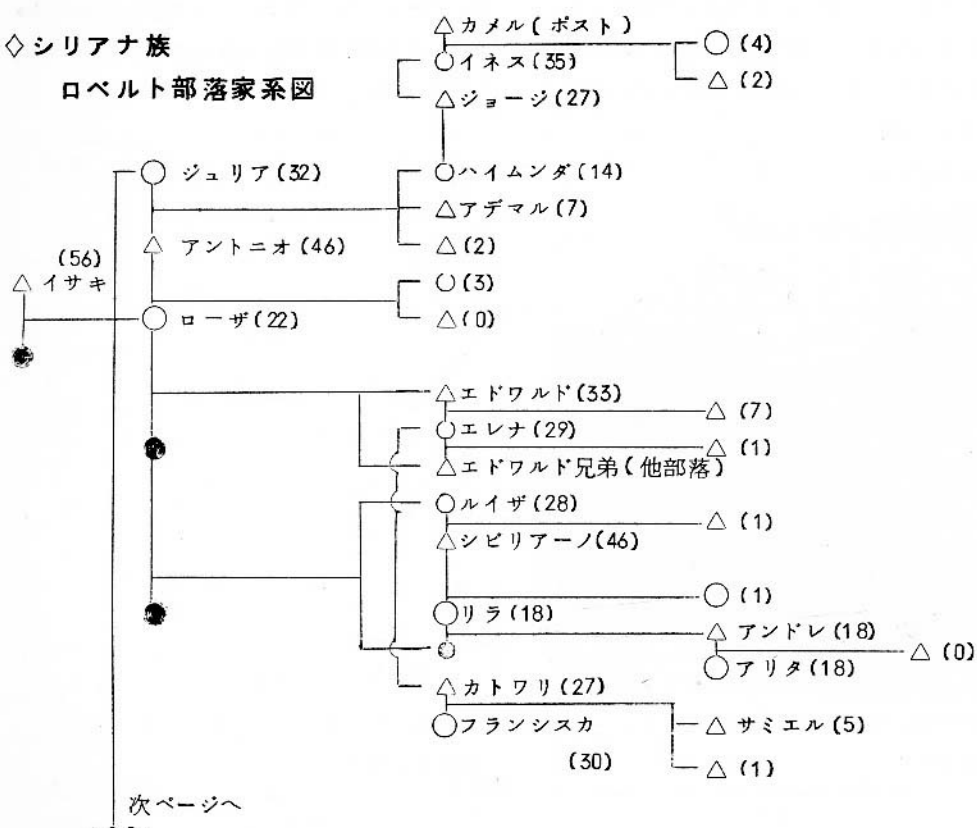
## ◇ シリアナ・ロベルト 部落

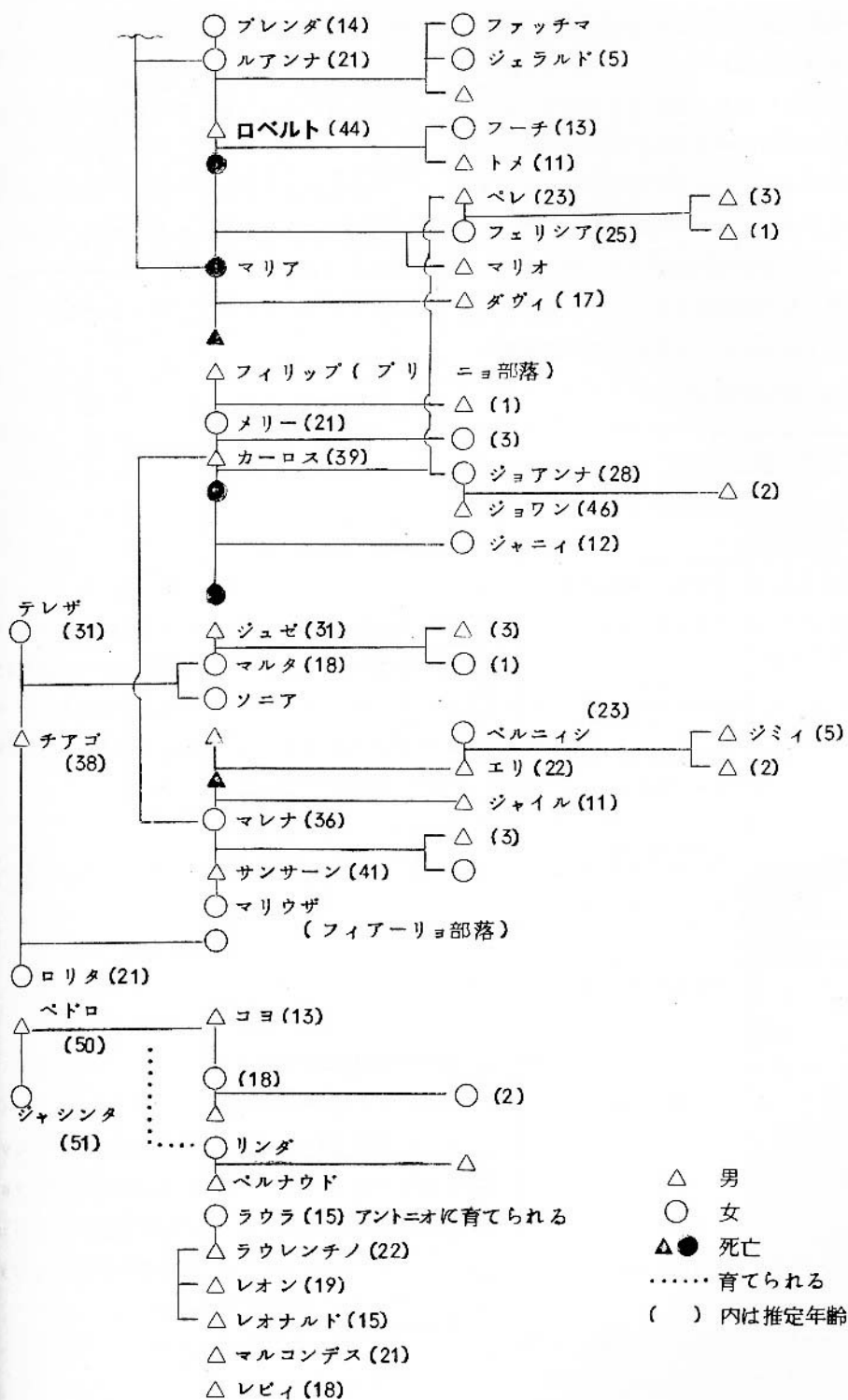
推定年齢表

| 年齢区分    | 男  | 女  |
|---------|----|----|
| 0 歳     | 19 | 9  |
| 5～10 歳  | 3  | 2  |
| 11～15 歳 | 3  | 5  |
| 16～20 歳 | 4  | 4  |
| 21～25 歳 | 4  | 6  |
| 26～30 歳 | 2  | 4  |
| 31～35 歳 | 2  | 3  |
| 36～40 歳 | 2  | 1  |
| 41～45 歳 | 2  | 0  |
| 46～50 歳 | 4  | 0  |
| 51 歳以上  | 1  | 1  |
| 総計 81名  | 46 | 35 |

## ◇ シリアナ族

### ロベルト部落家系図





しあわせるとかなり一致がみられるのがわかる。

一応、参考程度に記す。

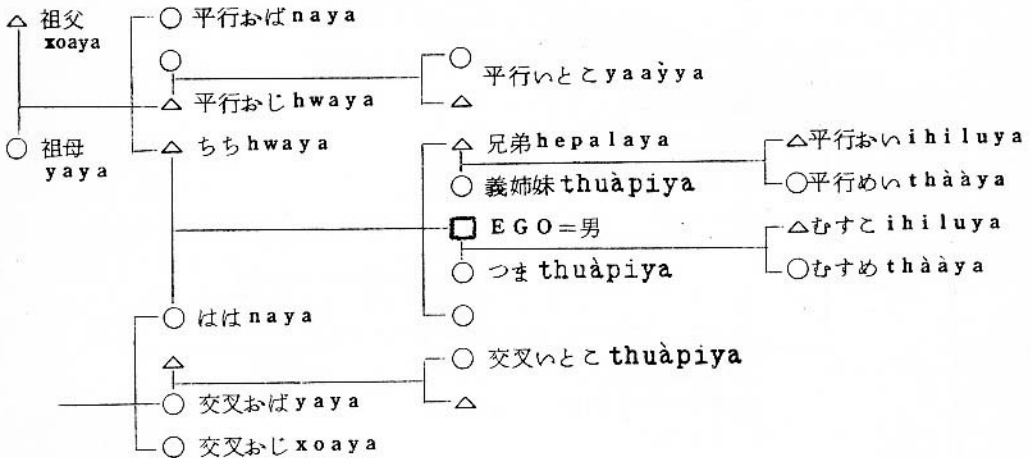
アントニオにとって

ちちはペドロ きょうだいはコヨ、カーロス、ジュゼ、マルタ、メリー、ロベルト  
 むすこやむすめはエレナ、カトワリ、ハイムンダ、エネス、エドワード、アデマル、ジョージ、フェリシア、フーチ、トメ、フッチマ、ドナウド、レベッカなど

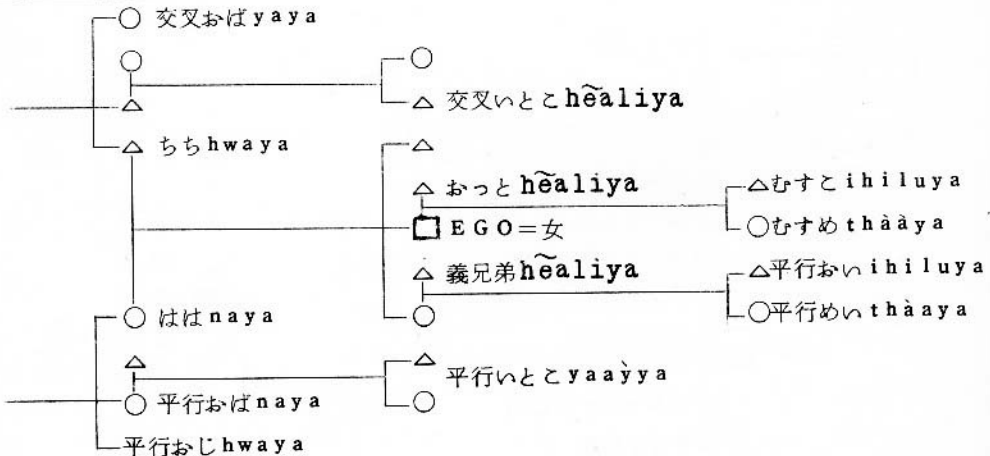
ここで親族名称の問題であるが、今回、我われの記した家系図においては、死亡した世代の人々がわからないため、現在つかわれている親族名称がどこに由来するのか、非常に判読しにくいものになっている。つぎにしめすのは、アントニオ（シリアナ・ロベルト部落）に聞いたものであるが、聞き方の不備でか、彼の話したものと、我われの記載したものとに、多分にくい違いがでてゐる。しかし家系図と下図を照ら

# ◇親族名称関係図

## EGO=男の場合



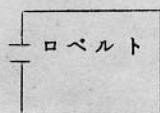
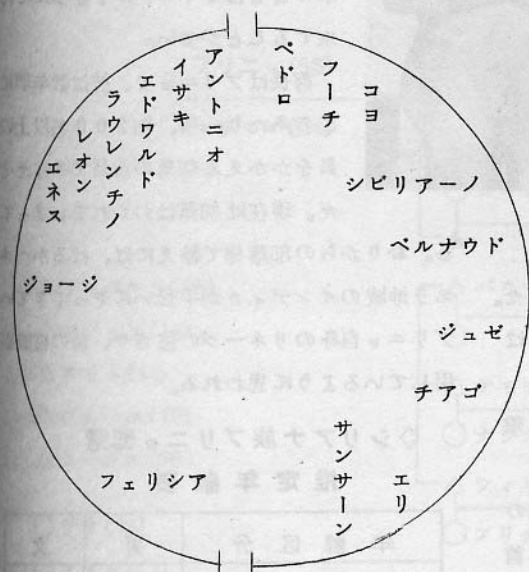
## EGO=女の場合



つぎにロベルト部落各員の寝起きしている位置を示そう。この部落のみが大家屋と小さな家屋の2つを持っている。さらにロベルト首長は一戸建の別棟を所有している。この配置図でわかるように、大家屋の方はアントニオの影響力

が強く、小家屋の方はカーロスの影響下にあり、そして全体的にロベルトが押さえているという感じである。

# ◇ シリアナ族ロベルト部落 家屋・内配置図



ここで、老人を中心に部落成員の横顔を紹介してみよう。

△ロベルト(44歳) 老年というよりは壮健な首長であり、実力もある。一戸建の家を持つなど、考え方も近代的である。知る範囲において、彼は今まで6人の妻を持った。また数年前まであった戦いでは、数10人も殺したという勇猛な一面をもつ。この一帯では弓矢の最高の名手ときく。

○ジャシント(50) 女性の中で最も発言力が強い。数年前からびっこをひいている。なお、フィアーリョ部落においても、発言力が強いということである。(写真)

△ジョワン(46) 数年前オンサに腰をか

まれ、以来寝たきりの状態である。

小便などもハンモックのすぐ下に穴を掘って、そこで行なり。病気ながらシャーマンであり信望も厚いようだ。妻ジョアンナはカーロスの娘であり、生活はカーロスがみている。



△アントニオ(46) 副首長である。

儀式の際の長で、この部落においてシャーマンの第一人者である。我われは彼に部落の案



イサキと2人の孫

内や食糧の提供をうけるなど世話になった。まったく人のよい男で、少し仕事をしては『フー』と溜息をつく。

第2夫人の出産現場を我われは偶然、目撃できた。

△イサキ(56) 彼がこのロベルト部落の家系の源であるといえる。娘がそれぞれ首長、副首長と結婚し、なんの不自由もない。この部落の最長老である。(上写真)

我われが他の部落へ遊びに行くと、言うのと、またすぐに帰ってこいと言ってくれた。

○ルアンナ(20) 首長ロベルトの第1夫人。この部落一番の美人かもしれない。ただし第2夫人のブレンダとは口も聞かないし食事も別々で、一夫多妻の難しさがしのばれる。

△カーロス(39) 有力メンバーの1人である。彼の娘ジャニイ(12歳)が初潮をむかえた時、機嫌よくなかったが、写真を撮らせてくれた。妻はメリーである。



## II シリアナ族ブリニョ部落

ロベルト部落より徒歩で1時間位の所にシリアナ族・ブリニョ部落がある。雨季の時はカヌーを利用して、また乾季のときはジャングルを徒歩にて行き来することが多い。

首長はブリニョで、彼は数年前にはこのあたり一帯、約200名以上の成員をかかえる部落の首長であったそうだ。現在は部落はわかれてしまっている。おりからの部落建て替えには、はるかベネズエラ地域のインディオが手伝いにやってきていた。ブリニョ自身のリネージの強さや、昔の権威が作用しているように思われる。

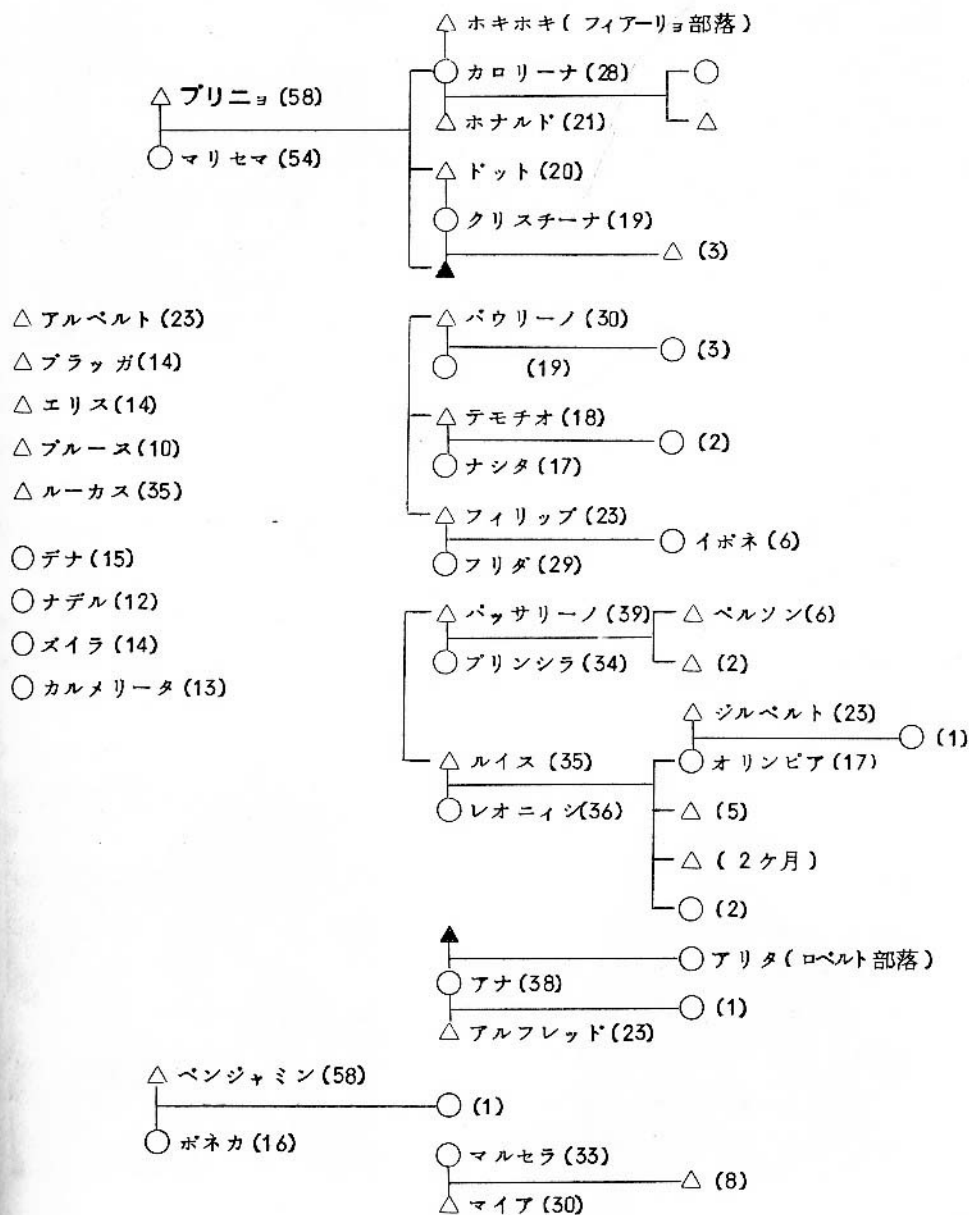
### ◇シリアナ族ブリニョ部落 推定年齢表

| 年 齢 区 分   | 男  | 女  |
|-----------|----|----|
| 0 ～ 5 歳   | 6  | 6  |
| 6 ～ 10 歳  | 1  | 3  |
| 11 ～ 15 歳 | 2  | 4  |
| 16 ～ 20 歳 | 2  | 5  |
| 21 ～ 25 歳 | 5  | 0  |
| 26 ～ 30 歳 | 2  | 2  |
| 31 ～ 35 歳 | 2  | 2  |
| 36 ～ 40 歳 | 1  | 2  |
| 41 ～ 45 歳 | 0  | 0  |
| 46 ～ 50 歳 | 0  | 0  |
| 50 歳 以上   | 2  | 1  |
| 総 計 49    | 24 | 25 |

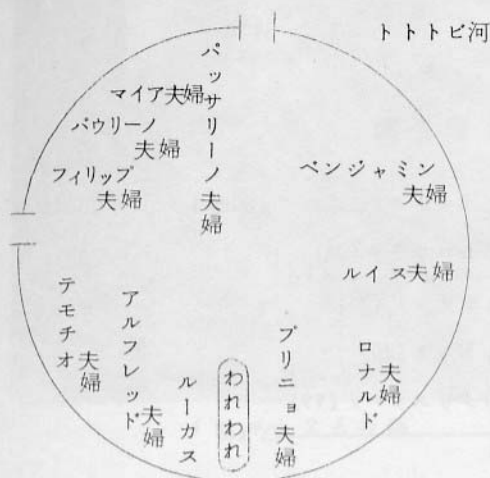
この部落はブリニョの性格のためか、いっばんに農耕が盛んであり、穏健である。この部落もおもなるつの家系からなっている。しかし、こ

れはあくまで、現在の状態にすぎない。まずブリニョ部落の家系を見てみよう。

# ◇ シリアナ族ブリニョ部落 家系図



◇ シリアナ族ブリニョ部落 家屋内配置図



ここでおもな成員の横顔をみてみよう。

○マリセマ (54 歳)      ブリニョの妻。この近隣において女性では最長老と思われる。女性のダンスにおいて参加しなかったのは彼女だけであった。高貴な貴婦人という感じの女性である。

△ルイス (35 歳)      パウリーノの弟。次期首長候補である。妻のレオニシとはいつもニコニコしている陽気な夫婦である。



ル  
イ  
ス



レ  
オ  
ニ  
シ  
と  
子  
ど  
も

○デナ (15 歳)      未婚女性の最年長。ヤングパワーの代表である。この部落は活発な人が多く、その中でも代表格で歌、踊りとなんでもこなし、おまけに料理、糸つむぎなどが上手な健康美人である。

△ベンジャミン (58 歳)      ブリニョとともに最長老で、夫人はなんと推定 16 歳のボネカである。



デ  
ナ

### Ⅲ シリアナ族フィアーリョ部落

首長フィアーリョは我々が接した中で最も、頭の切れる首長と感じられた。FUNAIとの交換の際、彼がブラジル語の品物の名を覚えているのは他の者の比ではない。さてフィアーリョ部落であるが、ロベルト部落から徒歩で約20分、ブリニョ部落から1時間15分程のところの位置している。ここも、おりから部落家屋を建て替え中だった。他部落からの協力者は、ブリニョ部落に比して少なかった。

ここで、この部落の家

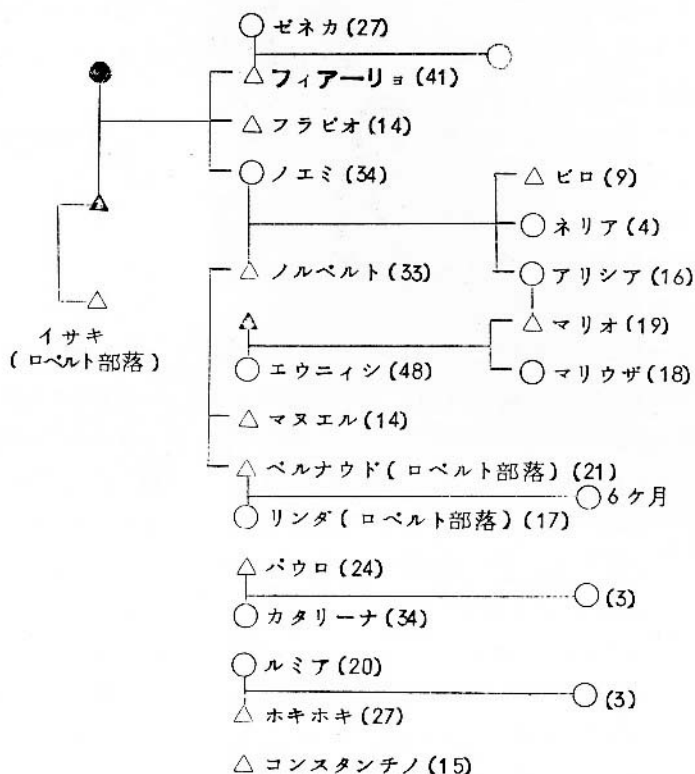
系図を見てみよう。ここでは大きくわけて、フィアーリョの力とノルベルトの力が均等である。ノルベルトの妻ノエミはフィアーリョの妹なのだが、必ずしもフィアーリョ自身の力が強いとは言いきれない。2人で首長の座を争っていると聞く。

#### ◇ シリアナ族フィアーリョ部落

##### 家屋内配置図



#### ◇ シリアナ族フィアーリョ部落家系図



#### ◇ シリアナ族フィアーリョ部落

##### 推定年齢表

| 年齢区分      | 男  | 女  |
|-----------|----|----|
| 0 ～ 5 歳   | 3  | 3  |
| 6 ～ 10 歳  | 1  | 0  |
| 11 ～ 15 歳 | 3  | 0  |
| 16 ～ 20 歳 | 1  | 4  |
| 21 ～ 25 歳 | 2  | 0  |
| 26 ～ 30 歳 | 1  | 1  |
| 31 ～ 35 歳 | 1  | 2  |
| 36 ～ 40 歳 | 0  | 0  |
| 41 ～ 45 歳 | 1  | 0  |
| 46 ～ 50 歳 | 0  | 1  |
| 50 歳以上    | 0  | 0  |
| 総計 24名    | 13 | 11 |

現在、彼らの寝起きしている位置は図のごとくである。客があった場合首長が世話をするというのではなく、特別に親しい親戚が世話をする。我われはロベルト部落ではアントニオ、ブリニョ部落ではブリニョ、フィアーリョ部落ではフィアーリョ、パラフリではトメの横にハンモックをつくり、寝起きをともにした。



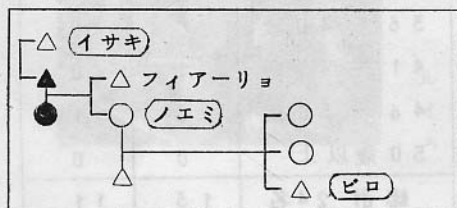
この部落でもいく人かの横顔を紹介しよう。

○ノエミ(34歳) ノルベルトの妻、フィアーリョの妹。彼女は片目が悪い。子のビロの目にも異常が出ている。(写真)

△マリオ(19歳) エウニシの息子。マリウザの兄。そしてアリシアの夫である。彼も彼女も新婚ホヤホヤという感じがする。マリオに風船を渡すと、何時間もそれで遊んでいた。親しみやすい青年だ。

△ベルナウド(21歳) 一応、ここに入れておいたが、いまはロベルト部落に住む。妻方居住となっている。しかし、この部落に畑をもっているので2カ月に1度ぐらいは戻ってくるようである。妻リンドは最も美人かもしれない。

さきにノエミの目が悪いことは述べたが、ロベルト部落のイサキも実は片目が同様に悪いのである。そこでつながりを求めてみたが、やは



りつながりはあったのである。

なおノエミの両親の目が悪いかどうかは不明。またノエミ、ビロ以外はこの症状は出ていない。

#### IV パラフリ部落

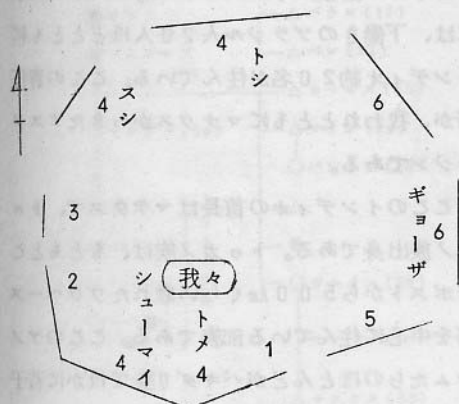
ブリニョ部落からまったく道のない(我われにとって)行程2日のところにある。ブルース氏(ミッション)より3時間ぐらいで行けると聞き、フィリップとブラガ(ブリニョ部落)を案内人に私(松本)と藤本隊員の計4名で、安心して出発した。

しかし1日目、彼らの走るような歩き方にザックをかついだ我われは、早くもダウン。2日目、彼らに荷をもってもらい、やはりジャングルを走るようにつけぬけていく。最後、ものすごい坂をよじるようにして登り、昼すぎには部落に着いた。なんのことはない、もうベネズエラ領まで何kmとない地点である。

部落に入った瞬間、ワッと喚声があがった。一瞬、驚いてどきまぎしたが、彼らはすぐに我われのために屋根つきの家を建ててくれた。その後、ハンモックで寝ていると、つぎつぎと食物が切れ目なく運ばれてきた。そして1人の病気の子を見てやったことから、つぎつぎと病人(皮膚病)が列をつくるのだった。ここでもガリガリにやせていた少女の胸に1本のつるを巻きつけるという、一種の病気に対する「まじない」が見られた。

このパラフリ部落には、FUNAIもミッションもまだ入ったことがなく、首長のトメ以外ブラジル名がない。かといってインディオ名は教えてくれないし、記載するのにきわめて不都合なので、とうとう我われで勝手につけ始めた。その時、頭に浮かぶのは食べる物ばかりで、日本食の名がおかたを占めるというおそまつであった。

# ◇パラフリ族部落内配置図



はじめ1週間滞在の予定が、FUNAIの都合で2日にちめられ、調査らしい調査はほとんどできなかった。

しかし、それでもまずこの部落内の配置から説明する。数字は人数を表わし、このうち何人他の部落へ旅行しているか、また他部落から遊びに来ているかはわからないが、成員はほぼ40名くらいだろう。なお男子10歳以上女子10歳以上の成員数は約20名であった。

つぎに我われが勝手につけた名前をあげてみる。

男子 シューマイ、トメ、ギョウザ、ピーダマ、シゲ、スシ、トシ

女子 ユキ、サヨ、タレ、ミチ、ヤマ、マツ、ミコ、アイ、ウドン、カニ、ハナ、ヨシ、バア

この中で目立つのは男子にくらべ女子が多いということである。ここではかなりの数の男子が2人以上の妻を持つと考えられる。そして首長トメがシューマイとギョーザを紹介するとき、彼らも首長だといった。

ここで何人かの横顔をのぞいて見よう。

○バア 陽気な性格。カニとともに生活



ギョウザ

している。バアとつけたのは、いかにも婆さん風であったからである。名前をつける乏しい才能。

△ギョーザ 我われの案内役になった男。どこへ行くにもついてきた。親切な男でいかにもギョーザ屋の主人といった感じで命名。なお妻にはタレと命名。

△スシ 青年層の薄い中では貴重な人物。ここで男子の歌を聞いたが、その元気のよいこと……。彼がシゲとともに一番元気があった。なおスシの発音を彼はとうとうできず「スス」となってしまった。その妻はウドンと命名。

○ミコ このパラフリ部落において、本当に可憐な花といった感じの少女。

△シゲ 独身の男性。13歳くらいだろう。しかし彼だけしか独身男性がいないということは淋しいことである。さすがに歌はうまく若者らしい。だが、非常なテレ屋である。

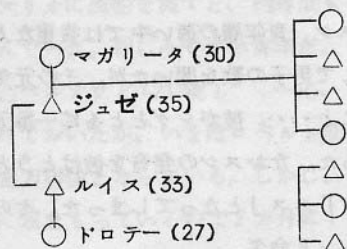
## V バキダリ族ジュゼ部落

デミニ河と

トトピ河の合流点よりロベルト部落にいたる道  
の中間に位置し、合流点から25kmくらいの地  
点であろう。このバキダリ族の大半はポスト・  
アジュリカバに居住している。そのほか、ジュ  
タイ河（デミニ河支流）にも2〜3家族、生活  
している。

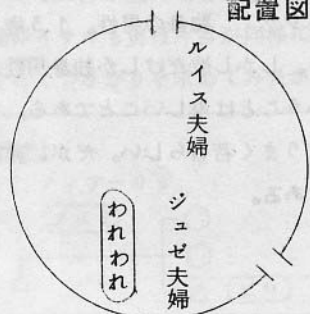
この家系図はジュゼとルイスの兄弟だけであ  
る。ジュゼの妻マガリータはポスト・アジュリ  
カバのカメル（後出）の妹である。たった2家  
族のため、皆でよく旅行している。我われと行  
く先々で顔を合わせた。またルイスの妻はドロ  
テーというが、ミッシェンのブルース氏の夫人  
がドロテー（ドロシー）であり、そのブルース  
夫人いわく「FUNAIがかってに私の名前、つ  
けたのヨ」と日本語でいって、変な顔をしてい  
た。地理的な関係と少人数のため、獣が豊富で  
我われもここでバクをあきるほど食べた。

### ◇ バキダリ族ジュゼ部落家系図



### ◇ バキダリ族ジュゼ部落家屋内

配置図



## VI ポストのインディオ

FUNAIのア

ジュリカバ出張所 (Posto Ajuricaba)  
には、下働きのブラジル人20人ほどとともに  
インディオ約20名が住んでいる。この責任  
者が、我われとともにマナウスからきたエスメ  
ラジンである。

このインディオの首長はマテウスで、トゥ  
カノ族出身である。トゥカノ族は、もともとこ  
のポストから500kmくらい離れたワウベス  
河を中心に住んでいる部族である。このヤノ  
マムたちのほとんどがバキダリ族でほかに若干  
のシリアナとワイカがいる。

この集落の20歳以下の青年、子どもたちは  
かなりブラジル語が理解できる。その反面、と  
りわけ15歳以下のものは、インディオ語をよ  
く話せず、伝統的な歌や踊りを知らないとい  
うことが生じてきている。またここでは極端に女  
子成員数の少ないのが目立つ。部落にくらべる

とブラジル人と

接触する機会は

はるかに多く、

今後、若者たち

がブラジル人の

女性と結婚する

可能性は大であ

る。

家系図を見て

みるとワウデマ

が「かなめ」に

なっているのが

よくわかる。ま

た、ひとりカメ

ルがはずれてい

る。彼は風来坊

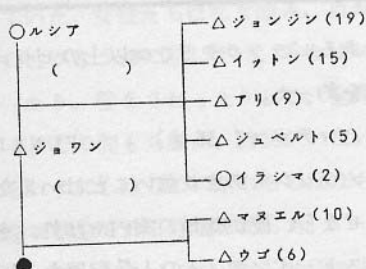
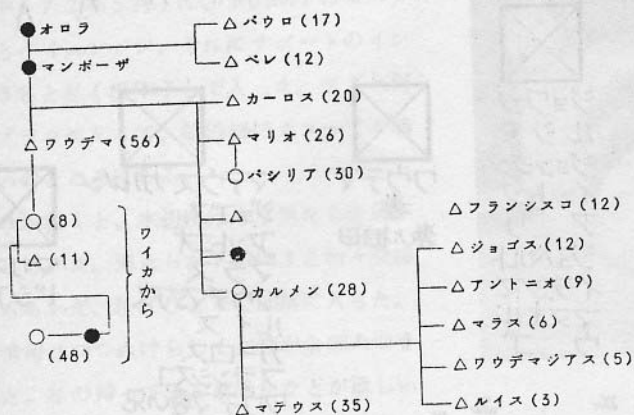
という感じの人

### ◇ ポスト・インディオ

#### 推定年齢表

| 年齢区分   | 男  | 女 |
|--------|----|---|
| 0～5歳   | 3  | 1 |
| 6～10歳  | 5  | 1 |
| 11～15歳 | 4  | 0 |
| 16～20歳 | 4  | 0 |
| 21～25歳 | 0  | 0 |
| 26～30歳 | 1  | 2 |
| 31～35歳 | 2  | 1 |
| 36～40歳 | 1  | 1 |
| 41～45歳 | 0  | 0 |
| 46～50歳 | 0  | 1 |
| 50歳以上  | 1  | 0 |
| 総 28名  | 21 | 7 |

◇ポスト・インディオの家系図



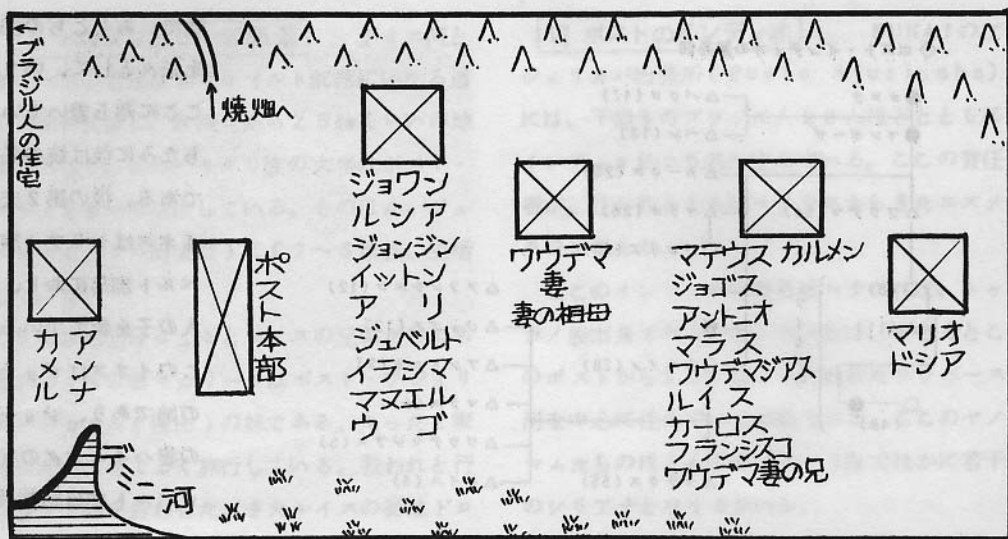
○ アンナ (38)  
△ カメル (32) — (ロベルト部落家系図参照)

物で、あちこちの部落を転々として、いまはここに落ち着いている。ちなみに彼は銃の名手である。彼の第2夫人イネスはシリアナ族ロベルト部落におり、2人の子を育てている。このイネスはジョージの姉であり、ジョージの妻ハイムンダの父はロベルト部落副首長のアントニオである。

つぎにカーロスに聞いた親族名称(関係)を若干の疑問はあるが記す。



ポストの住民



カーロスにとってマテウスは義兄弟

イットンは義兄弟

ワウデマの妻は義母

ジュゼ(パキダリ)はおじ

ロベルトはおじ(ただし彼の妻  
はおばにあたらない)

ブリニョはおじ(ただし彼の妻  
はおばにあたらない)

マテウスにとってジョワンは父

ジョワンにとってワウデマは義兄弟

ジョンジンにとってマテウスは兄弟

つぎに彼らの横顔を紹介しよう。

△ワウデマ(56歳) 大首長の貫録を持つ。カーロスとともに我われとジャングルを抜けた仲間であるが、若いカーロスがバテて、ワウデマが疲れた様子のないのには驚いた。このおり、ワイカ族より8歳の女兒を妻に連れてくる。いつも笑っている。

△カーロス(20歳) 我われの最大の遊び仲間であり、案内人。またパキダリ語のインフォーマント。いつも陽気で気のいい若者。よく魚釣りに行ったもので、1mも

あるビララや50cm以上のビラニアなどを釣った。

△マテウス(35歳) FUNAIのエスメラジンもあまり強いことはいえない。なぜなら、彼が奥地の案内や渉外、またはポスト・インディオの人員配置などに権限をもっているからである。

△マラスフィーリョ(6歳) ポストの子は奥地部落の子にくらべて、我われにしてみれば、こわい。少々ブラジル語をしゃべるので、ものをねだったりされるから



ワイデマ親子

である。彼はマテウスの息子で魚釣りや手製の弓矢で果実などを落として遊ぶ元気な明るい子である。ただ彼もタバコを欲しがるのが玉にきずである。この集落のほぼ全員の少年はタバコをすう。

## VII ワイカ族ジャコ部落

マブラウ河

には雨季（72年5月）に、FUNAIのエスメラジンとハイムンジン、それにサポートのインディオ3名と私（松本）とで入った。デミニ河からマブラウに入って、船外機付カヌーで6時間くらいのところにある。

我われが着くと、水辺にはもう男たち全員があつまっていた。男たちがFUNAIと物々交換しているあいだ、私はひとりで部落に入った。すでに情報はつつめけらしく女性が全部あつまってきた。私の持っている首飾りなどが欲しいのだ。そのかわりにと、美しいバスケット類をもってきていた。女性たちは私を囲み、首長夫人らしき女性がさかんに話しかけ、みなはズボンをさわったり、髪をさわったりして、全員笑いこける。この間もろろん、首長がいないので写真はとれずに（はじめに断わらねばならない）、完全に観察される立場にたった。

夕方になって、エスメラジンはじめ男たちが交換をし終えて戻ってきた。その夜は歓迎のダンスと歌ということになった。始まったのが夜の8時、終了が朝の6時で、この間ぶっ通しである。私には録音の絶好の機会であったが、とにかく疲れた。そうして帰る時間になってしまった。

このつぎに入域したとき（72年10月～11月）は乾季・減水期で部落へはいけなかったがちょうどジャコ首長はじめ数人が下流のポストに降りてきていたので、親交を深めたりした。しかし、この部落の実際的な調査はなににもできなかったで、資料として残るものがほとんどなく、残念である。人数が70名ぐらい、首長には第2夫人までいることのほか、なにものもない。

ここでジャコの横顔を紹介しよう。



ワイカ部落の新婚夫婦

△ジャコ はじめ入ったときは丸ぼうずであったが、2度目はインディオ・カット（かれら独特の刈り方を我われはこう呼んだ）になっていた。ポストにきているあいだに、いくつかのブラジル語？を覚えた。しかし、それがいつも「アイ・ツシャワ・ジャコ」（私は首長のジャコだ）ばかりで我われも、おもしろがって同じように「アイ・ツシャワ・ヨウ」などと繰り返した。